

## 青灰色の世界—須恵器—

2024年3月30日（土）～6月8日（土）

須恵器は、古墳時代に朝鮮半島から伝わった技術でつくられた土器です。須恵器が伝来するまで、日本では縄文土器や弥生土器のような素焼きの土器が使用されていました。須恵器は、ロクロで成形し、窖窯（あながま）で焼き上げる方法によって、固く焼け締まった青灰色の土器となります。

須恵器には、坏身（つきみ）、坏蓋（つきぶた）、壺、甕（かめ）、瓶（へい）、皿、高坏（たかつき）などたくさんの器種が存在し、それらは貯蔵、供膳、調理、祭祀（さいし）などに用いられました。様々な利用方法があった須恵器は、集落跡や古墳、役所跡、生産地である窯跡などからみつかっています。

当初は大阪の陶邑（すえむら）窯跡群が一大産地でしたが、次第に各地でも生産が活発化していきました。神戸も古くから窯がつくられ、中世には東播磨地域（神戸市西区、明石市、三木市周辺）でつくられた「東播系須恵器（とうばんけいすえき）」は全国に流通する土器となりました。

今回の展示では、「青灰色の世界」をテーマに、神戸市内から見つかった須恵器を中心にをご紹介します。



神戸市長田区観音山古墳出土  
須恵器 坏蓋、坏身、甕、平瓶  
当館蔵

### [出品資料]

指定	資料名（所蔵番号または所蔵）	作者	材質技法	員数	時代
	須恵器 坏蓋		粘土	1	古墳時代
	須恵器 坏身		粘土	1	古墳時代
	須恵器 甕		粘土	1	古墳時代
	須恵器 平瓶		粘土	1	古墳時代
	土師器 壺		粘土	1	古墳時代
	須恵器 提瓶		粘土	2	古墳時代
	片口鉢		粘土	1	平安時代